

科目名	神経内科学Ⅱ						
科目名(英)	Neurological Medicine Ⅱ						
単位数	1	時間数	30	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法に関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。</li> <li>・神経内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。</li> <li>・神経内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。</li> </ul>						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				作業療法士に関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○				作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学 (補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア、水頭症				教科書で予習しておく。	
	2	脳血管障害Ⅰ、(疫学、分類、合併症、症状、治療)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	3	脳血管障害Ⅱ、診断(臨床症状による)、リハビリ訓練				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	4	認知症、記憶障害				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	5	脳腫瘍と外傷性脳損傷				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	6	神経内科と脊髄疾患(神経内科領域、脊髄損傷)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	7	変性疾患、脊髄小脳変性症関連(小脳症状解説)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	8	変性疾患、運動神経変性(筋萎縮性側索硬化症など)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	9	脱髄性疾患、多発性硬化症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	10	パーキンソン病と失調症、不随意運動				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	11	単神経麻痺、末梢性ニューロパチー、ギランバレー症候群				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	筋疾患、筋炎、筋ジストロフィー症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	重症筋無力症、周期性四肢麻痺、代謝性疾患				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	14	神経内科における感染症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	精神医学Ⅱ						
科目名(英)	Psychiatry Ⅱ						
単位数	1	時間数	30	担当者	諸江 健二		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年						
授業概要	精神医学一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、治療について、医療従事者として最低知っておかなければならない事柄について学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神医学一般の知識について説明できる。	
	○	○				精神疾患の精神病理、臨床像について説明できる。	
	○	○				精神疾患に対する治療について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理療学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院 参考文献:精神科ポケット辞典(弘文堂)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	発達障害(1)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	2	発達障害(2)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	3	精神作用物質				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	4	てんかん(1)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	5	てんかん(2)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	6	器質性精神障害と症状精神病(1)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	7	器質性精神障害と症状精神病(2)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	8	精神機能検査				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	9	統合失調症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	10	感情障害				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	11	神経症性障害				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	治療とリハビリテーション(1)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	治療とリハビリテーション(2)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	14	これまでのまとめ1				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
15	定期試験対策						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	老年医学					
科目名(英)	Geriatrics					
単位数	1	時間数	30	担当者	伊佐 勝典	
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年					
授業概要	我が国の平均寿命は世界一位となり、高齢障害者が増加している。リハビリテーションの場においても高齢者に関する知識がさらに重要となるであろう。この授業では老年医学に関する基本的な医学知識(病態、診断、治療、リハビリ)の習得を目指し、臨床実習で応用できる力を身につけることを目的とする。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				老年医学一般の知識について説明できる。
	○	○				老年期疾患の病理、臨床像について説明できる。
	○	○				老年期疾患に対するリハビリテーションについて説明できる。
テキスト・教材 参考図書	標準理理学療法学・作業療法学 老年学(医学書院)					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	老化と老年学、加齢に伴う変化(生理機能)				配布資料の復習
	2	加齢に伴う変化(運動機能・精神心理面)、性差医療からのアプローチ				配布資料の復習
	3	高齢者の定義及び人口動態、高齢者との接し方				配布資料の復習
	4	高齢者の機能評価、栄養評価、臨床検査評価、薬物療法				配布資料の復習
	5	高齢者に多い症候と老年症候群				配布資料の復習
	6	循環器疾患、呼吸器疾患				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習
	7	消化器疾患、神経疾患				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習
	8	認知症と精神疾患、糖尿病と内分泌疾患、血液・免疫疾患				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習
	9	腎疾患、泌尿器疾患、骨粗鬆症と運動器疾患				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習
	10	皮膚・口腔疾患、感染症				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習
	11	耳鼻咽喉疾患・眼疾患、婦人科疾患				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習
	12	高齢者の外科治療、東洋医学・老年学・社会学・経済学からのアプローチ				配布資料の復習
	13	高齢者の医療、看護、介護・福祉、保健、高齢者のリハビリテーション				配布資料の復習
	14	高齢者の退院支援、高齢者の在宅支援、人生の最終段階における医療				配布資料の復習
15	まとめ				講義全体の資料整理と試験に向けての準備	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	◎	◎			
	小テスト					
	宿題・レポート					
	発表・作品					
評価割合						
履修上の注意						

科目名	臨床薬理栄養学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30	担当者	花田 輝代・片岡 彩子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年						
授業概要	本科目は、薬物療法における基礎知識の習得や、リハビリテーション栄養に関する基礎知識と実践方法について理解することを目的とする。また、疾患別の対処法の違いなどを学ぶことで臨床で実践できるようにする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				薬についての基礎知識や体内でどのように吸収、代謝、排泄されるのかを知る。	
	○	○				汎用される薬物の作用機序について理解し説明できる。	
	○	○				栄養についての基礎知識や5大栄養素の役割について学ぶ。	
	○	○				各病態における栄養の作用機序について理解し説明できる。	
	○	○				代表的疾患を通して薬理学、栄養学の知識を応用できるようにする。	
テキスト・教材 参考図書	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 POSのためのリハビリテーション栄養 リハベシック 薬理学・臨床薬理学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	薬理学総論				教科書にて復習する。	
	2	(薬理学の役割と目的、薬物の体内動態および薬理作用、副作用など)				教科書にて復習する。	
	3	薬の作用に影響する因子				教科書にて復習する。	
	4	感染・炎症の制御と薬物療法				教科書にて復習する。	
	5	神経疾患の薬物療法				教科書にて復習する。	
	6	精神疾患の薬物療法				教科書にて復習する。	
	7	循環器系疾患の薬物療法				教科書にて復習する。	
	8	血栓症の薬物療法				教科書にて復習する。	
	9	栄養の基礎:5大栄養素の役割				教科書にて復習する。	
	10	栄養の基礎:運動時の栄養、栄養不良時の栄養				教科書にて復習する。	
	11	栄養のスクリーニング、評価、マネジメントについて				教科書にて復習する。	
	12	主な病態の栄養療法:低栄養者、フレイル、サルコペニア、メタボリックシンドローム				教科書にて復習する。	
	13	主な疾患の栄養療法:中枢神経疾患				教科書にて復習する。	
	14	主な疾患の栄養療法:整形外科疾患				教科書にて復習する。	
	15	主な疾患の栄養療法:呼吸・循環器疾患、がん				教科書にて復習する。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	保健医療福祉制度論						
科目名(英)	Medical welfare System						
単位数	1	時間数	30	担当者	松本 剛史		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	通所施設にて作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年						
授業概要	医療と福祉の制度について学習し、作業療法士として各制度に対する知識を持つことの有用性を理解してもらう。また、これから変化していく各制度の情報に耳を傾け、自ら学習していくといった意識を持つ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					リハビリテーション診療報酬など作業療法士に関係する医療保険制度を説明できる	
	○					障害者手帳や障害者総合支援法に規定されるサービスを述べるができる	
	○					介護保険に規定されるサービスを述べるができる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図解入門ビジネス 障害者総合支援法がよくわかる本 [第6版] (How-nual図解入門ビジネス)</li> <li>・2021(令和3)年度改定対応版 リハビリテーション診療報酬&amp;介護報酬マニュアル 制度のしくみと算定のきほん</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業の概要				配布資料を使用し復習	
	2	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)				配布資料を使用し復習	
	3	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)				配布資料を使用し復習	
	4	リハビリテーション診療報酬				配布資料を使用し復習	
	5	リハビリテーション診療報酬				配布資料を使用し復習	
	6	高齢者福祉(介護保険制度の仕組み、介護保険サービスの利用)				配布資料を使用し復習	
	7	高齢者福祉(介護保険制度の仕組み、介護保険サービスの利用)				配布資料を使用し復習	
	8	高齢者福祉(介護保険制度の仕組み、介護保険サービスの利用)				配布資料を使用し復習	
	9	リハビリテーション介護報酬				配布資料を使用し復習	
	10	リハビリテーション介護報酬				配布資料を使用し復習	
	11	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)				配布資料を使用し復習	
	12	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)				配布資料を使用し復習	
	13	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)				配布資料を使用し復習	
	14	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)				配布資料を使用し復習	
	15	まとめ				配布資料を使用し復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション研究法						
科目名(英)	Research method in Rehabilitation						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小野 仁 中山 仁		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年						
授業概要	本科目は、臨床研究で求められる問題提起や目的、仮説設定、考察の仕方などについて学びます。実際のプロセスなどを研究例(事例など)から学び、研究計画を立て、遂行、発表するために必要な基礎的な知識・技能を学びます。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				研究手順を理解することができる	
	○	○				文献を検索し、管理することができる	
	○	○		○		文献を抄読し、発表することができ、発表に興味や関心を示した態度で参加できる	
	○	○		○		事例研究について理解することができ、発表に興味や関心を示した態度で参加できる	
	○	○				研究法への興味や意欲、関心を深める	
テキスト・教材 参考図書	作業療法士のための研究法入門 三輪書店						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	研究とは何か 論文紹介 課題①「テーマ探し」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 「序」を読む 課題①「テーマ探し」		
	2	研究をするということ 作業療法と研究 研究疑問と研究の様式 課題②「仮説」:自分の疑問			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 課題②「仮説」		
	3	研究の倫理と管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	研究の流れ 研究期間の設定 文献レビュー			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	研究の流れ 研究計画の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	文献検索の方法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	文献の管理と活用法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	文献抄読会 演習A資料作成			検索した文献を抄読し、発表資料をまとめる。 課題③「要約」:アブストラクト作成」		
	9	文献抄読会 演習A発表			文献抄読 発表A-1		
	10	文献抄読会 演習A発表			文献抄読 発表A-2		
	11	文献的研究や理論的研究、調査研究、実験的研究、シングルケース研究、事例研究			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	事例研究 (シングルケース研究、事例研究)演習B資料作成			検索した文献を抄読し、発表資料をまとめる。 「文献抄読発表資料」		
	13	事例研究 (シングルケース研究、事例研究)演習B発表			文献抄読 発表B-1		
	14	事例研究 (シングルケース研究、事例研究)演習B発表			文献抄読 発表B-2		
15	国家試験「研究に関連する問題解説」 デザインと尺度、検定方法、他 まとめ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。			
評価方法	(1)課題①「テーマ」、②「仮説」、③「要約」(2)演習:「文献抄読A,Bの発表」※資料展も含む。を実施。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作成	◎	◎				70%
	発表	◎	◎		◎		30%
履修上の注意							

科目名	基礎作業学実習Ⅱ						
科目名(英)	Occupation Based Overview ; Practice						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	協元 啓行		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年						
授業概要	1. 作業療法における「作業」について教授する。 2. 作業分析について学び、実際に体験し発表を行う。 3. 「指導法」について学び、「作業の指導」を実際に体験する。 4. 作業の治療的な適用のしかたを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					作業療法における「作業」について説明ができる	
	○	○				作業分析を実際に行うことによって、作業分析の理解をより深める事が出来る	
	○	○				学生同士で指導法を実施する事で、受ける側も理解でき、臨床に活かす事が出来る。	
	○	○				作業療法の臨床での治療的介入を理解する事が出来る。	
テキスト・教材 参考図書	長崎重信 監修:作業学, 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト2. メジカルビュー社, 2010. 参考文献:吉川ひろみ:「作業」ってなんだろう(作業科学入門).医歯薬出版, 2008. 日本作業療法士協会:作業・その治療的応用 改訂第2版.協同医書出版社, 2003. 古川宏:作業活動実習マニュアル.医歯薬出版.2012. 小林夏子・福田恵美子:基礎作業学第2版(標準作業療法学・専門分野).医学書院, 2012. 石川齊, 古川宏 他:図解作業療法技術ガイド第3版.文光堂, 2011.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	作業療法における作業とその意義			配布プリントの復習 まとめプリント配布		
	2	作業の治療応用とその効果			配布プリントの復習 まとめプリント配布		
	3	作業遂行過程における評価(作業分析について)			配布プリントの復習 1年次「基礎作業学実習Ⅰ」の資料・レポート復習		
	4	作業分析実習(グループ課題)			必要文献の準備		
	5	作業分析実習(グループ課題)			必要文献の準備		
	6	作業分析実習(グループ課題)			必要文献の準備		
	7	作業分析実習(グループ課題)			レポート提出作成の準備		
	8	作業分析まとめ・小テスト			レポート作成 小テスト範囲を復習		
	9	臨床場面での作業活動の支援(対象者への説明、指導法)			レポート提出 まとめプリント配布		
	10	指導法体験実習(ペアで実習)			実習の必要物品の準備 指導計画書の作成		
	11	指導法体験実習(ペアで実習)			実習の必要物品の準備 指導計画書の作成		
	12	指導法体験実習 まとめ			レポート持参		
	13	治療への応用の実際・現場での様子①			レポート提出、配布プリントの復習 まとめプリント配布		
	14	治療への応用の実際・現場での様子②			レポート提出、配布プリントの復習		
15	まとめ・小テスト			全授業内配布プリント持参 小テスト範囲を復習			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)レポートを2回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	作業療法管理学Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	原田芳美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部2年						
授業概要	医療保険や介護保険における作業療法の報酬体系と作業療法部門を管理運営するための基本的な知識とスキルを学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		1) 医療保険や介護保険における作業療法の報酬体系を説明することができる。	
	○	○		○		2) マネジメントとそのプロセスのPDCAサイクルを説明することができる。	
	○	○		○		3) 作業療法士における目標管理と目標設定について説明することができる。	
	○	○		○		4) 組織とは何かを説明することができる。	
	○	○		○		5) 医療における情報の種類と取り扱いの注意事項について説明できる。	
	○	○		○		6) 医療サービスとは何か説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト: 大庭潤平・編著: 作業療法管理学入門. 医歯薬出版株式会社, 2018. 参考文献: 金谷さとみ・高橋仁美・編: リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック. メジカルビュー社, 2018						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コースガイダンス マネジメントとは			確認テスト実施		
	2	マネジメントプロセスの機能とPDCAサイクル			確認テスト実施		
	3	目標管理と目標設定			確認テスト実施		
	4	組織の成り立ちとマネジメント			確認テスト実施		
	5	病院・施設組織の特徴と作業療法士の役割			確認テスト実施		
	6	病院・施設に求められるコンプライアンス			確認テスト実施		
	7	医療における情報の種類と取り扱いの注意事項(個人情報保護法)			確認テスト実施		
	8	チーム医療・多職種連携とコミュニケーション			確認テスト実施		
	9	医療における診療記録と内容(SOAP演習)			確認テスト実施		
	10	サービスの基本的特性と構成			確認テスト実施		
	11	医療におけるサービスの特徴			確認テスト実施		
	12	医療保険制度			確認テスト実施		
	13	介護保険制度			確認テスト実施		
	14	障害者福祉制度			確認テスト実施		
15	まとめ			確認テスト実施			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)レポートを1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	確認テスト	○	○				
	宿題・レポート	○	○		○		20%
発表・作品	○	○		○			
履修上の注意							

科目名	作業療法評価学Ⅱ						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松田 茂		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年						
授業概要	作業療法のアプローチを行う上で必要なことは、対象となるクライアントのを知ることである。その為には身体的・精神的・社会的な情報を、直接的・間接的に収集し統合し、解釈しなければならない。この授業では、主に身体的な情報を集める為の技術を身に付ける。そしてその集めたデータがクライアントの生活にどう結びついていくのかを考える。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法評価の目的と流れを説明することができる。	
	○	○				作業療法評価法の様々な種類を説明できる。	
	○	○	○	○		作業療法評価を実際に行うことかできる。	
	○	○				評価結果から得られたデータが実際の生活にどう影響しているかを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1. 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院 2. 臨床での測定精度を高める ROM測定法 メジカルレビュー社 3. 新・徒手筋力検査法 協同医書出版 4. 神経診察クローズアップ メジカルビュー社 5. 運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢 メジカルビュー社 6. 運動療法のための機能解剖学的触診技術下肢・体幹 7. ICFの理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか きょうされん/萌文社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 総論 ・身体計測			配布プリントを復習し、実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。		
	2	・身体計測 ・バイタルサイン			配布プリントを復習し、実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。		
	3	・関節可動域測定① オリエンテーション、上肢(肩) ・関節可動域測定② 上肢(肩、肘、前腕)			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	4	・関節可動域測定③ 上肢(前腕、手関節) ・関節可動域測定④ 上肢(前腕、手関節)			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	5	・関節可動域測定⑤ 上肢(指) ・関節可動域測定⑥ 上肢(指)			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	6	・関節可動域測定⑦ 上肢(上肢全般の復習) ・関節可動域測定⑧ 下肢(股関節)			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	7	・関節可動域測定⑨ 下肢(膝) ・関節可動域測定⑩ 下肢(足関節)			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	8	・関節可動域測定⑪ 体幹 ・関節可動域測定⑫ 体幹			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	9	・徒手筋力検査法① 上肢 ・徒手筋力検査法② 上肢			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	10	・徒手筋力検査法③ 上肢 ・徒手筋力検査法④ 上肢			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	11	・徒手筋力検査法⑤ 上肢 ・徒手筋力検査法⑥ 上肢			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	12	・徒手筋力検査法⑦ 下肢 ・徒手筋力検査法⑧ 下肢			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	13	・徒手筋力検査法⑨ 下肢 ・徒手筋力検査法⑩ 体幹			実技で行ったことをレポートする。 配布プリントを埋めて、次回行うところを予習する。		
	14	・徒手筋力検査法⑪ 体幹 MMT全体の復習 ・握力・背筋力など器具を使った筋力測定			実技で行ったことをレポートする。		
	15	前期授業のまとめ			前期行った実技をもう1度振り返る		
評価方法	(1)定期試験(筆記) (2)定期試験(実技)を行い、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	(1)定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	(2)定期試験(実技)	◎	◎	◎	◎		40%
履修上の注意	実習は主に機能訓練室で行います。機能訓練室使用時には既定の実習着を着用してください。						

科目名	身体障害作業療法学Ⅰ						
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction Ⅰ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	老川 良輔		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年生						
授業概要	作業療法士の関わる身体障害領域について、その対象、目的、プロセス、介入について学習する。身体障害各論で、運動、感覚、関節可動域、筋緊張が障害された状態を学習する。疾患別の導入として、脳血管障害の障害像とその作業療法について学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				身体障害領域において作業療法士に求められる役割を説明することができる。	
	○	○				作業療法の実施過程を説明することができる。	
	○	○				各身体機能が障害された状態と、それに伴う作業の障害についてディスカッションできる。	
	○	○				脳血管障害の障害像、急性期・回復期・生活期作業療法の違いを説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルテキスト ①ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学(MEDICAL VIEW) ②身体領域の作業療法 第2版(中央法規) ③病気がみえる vol.7 脳・神経(メディックメディア) ④病気がみえる vol.11 運動器・整形外科(メディックメディア)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション(何のためにこの科目を学ぶのか、授業の受け方) 総論①(身体障害領域の作業療法とは、歴史、ICIDHとICF)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	2	総論②(身体障害領域の作業療法の実施過程、アプローチの方向性) 【障害別】各論 関節可動域制限①(関節可動域制限とは、分類、発生要因)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	3	【障害別】各論 関節可動域制限②(作業との関連、作業療法:回復モデル) 【障害別】各論 関節可動域制限③(作業療法:代償モデル、習得モデル、維			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 総論①②の小テストを行うため、準備をすること		
	4	【障害別】各論 筋力・筋持久力低下①(筋力・筋持久力低下とは、発生要因) 【障害別】各論 筋力・筋持久力低下②(作業との関連、作業療法:回復モデル)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 関節可動域制限の小テストを行うため、準備をすること		
	5	【障害別】各論 筋力・筋持久力低下③(作業療法:代償モデル、習得モデル、維持)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	6	【障害別】各論 感覚障害②(感覚障害による上肢の機能障害) 【障害別】各論 感覚障害③(作業療法:回復モデル、代償モデル)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 筋力低下の小テストを行うため、準備をすること		
	7	【障害別】各論 筋緊張①(筋緊張異常とは、評価) 【障害別】各論 筋緊張②(作業療法:回復モデル、作業の視点)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 感覚障害の小テストを行うため、準備をすること		
	8	【障害別】各論 失調症①(失調症とは、分類、小脳性運動失調、臨床症状) 【障害別】各論 失調症②(作業療法:回復モデル、作業の視点)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 中間試験《第1回～6回の内容》の準備を行うこと		
	9	【テスト】第1回～第6回の内容に関する中間試験 【疾患別】各論 脳血管障害①(分類、TIA、脳出血)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	10	【疾患別】各論 脳血管障害②(クモ膜下出血、AVMIに伴う頭蓋内出血、脳梗塞)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	11	【疾患別】各論 脳血管障害④(麻痺の回復過程とブルンストロームステージ)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	12	【疾患別】各論 脳血管障害⑤(感覚障害、高次脳機能障害などその他の症状)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 脳血管障害の小テストを行うため、準備をすること		
	13	【疾患別】各論 脳血管障害⑦(予後予測) 【疾患別】各論 脳血管障害⑧(急性期の作業療法評価)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	14	【疾患別】各論 脳血管障害⑨(急性期の作業療法、弛緩性麻痺の管理) 【疾患別】各論 脳血管障害⑩(機能回復訓練、ADL訓練)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	15	【疾患別】各論 脳血管障害⑪(IADL訓練、QOLへのアプローチ、退院支援) 【疾患別】各論 脳血管障害⑫(生活期の作業療法)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 定期試験《第7回～15回の内容》の準備を行うこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)授業の中で中間試験を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	発達障害作業療法学 I						
科目名(英)	Occupational Therapy for Developmental Disorders I						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	小野 仁		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	発達障がい領域の作業療法を展開するうえで必要な人間発達学を基盤とした関連知識を統合し、本人や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりのできる作業療法士を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。	
	○	○				発達障害領域における作業療法の理念、目的、役割、一般的な流れを説明することができる。	
	○	○				代表的障害(発達障害、脳性まひ)について臨床像を説明することができる。	
	○	○				上記障害の治療、指導、援助内容を考えることができる。	
	○	○		○		特別支援学校での介護等体験実習に参加し、児童・生徒との関わりで安全に配慮することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 改訂第3版、メディカルビュー、2021 参考文献:岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]第3版、三輪書店、2019 上杉雅之監修、辛島千恵子編集、イラストでわかる発達障害の作業療法、2106 その他						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	子どもの発達と作業療法 姿勢・運動発達				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	2	子どもの発達と作業療法 感覚統合機能の発達、認知・思考機能の発達				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	3	子どもの発達と作業療法 コミュニケーション機能の発達、子供の発達と遊び、セルフケアの発達と遊び				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	4	評価 発達障害領域の作業療法評価				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	5	評価 発達障害領域の作業療法評価				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	6	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	7	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	8	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	9	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	10	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	11	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	12	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	13	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
	14	まとめ～介護体験実習に向けて～				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します	
15	介護体験実習ガイダンス				介護体験実習に向けて、復習、準備をしておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施します。(2)定期試験(筆記)を実施します。(3)Teamsで振り返りの問題等を配信します。(4)介護体験実習後にレポートを提出してもらいます。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○	○				10%
	レポート、Teamsの課題	○	○		○		20%
履修上の注意	前期課程履修後に特別支援学校での2日間の介護体験実習を7月中に実施します。日程は日程調整の上告知します。 その他、必要なものについては事業の中で提示をします。						

科目名	精神障害作業療法学 I						
科目名(英)	OT for Psychological Disorder I						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	中山 仁		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年生						
授業概要	①精神医学の歴史と作業療法の歩みを知る ②精神保健・福祉領域における法律・施策を理解する ③精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を理解する ④精神科作業療法の実践課程を理解する ⑤精神障害特性と回復過程を理解する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○			目標		
	○	○			精神医学の歴史と作業療法の歩みの概略を説明できる。		
	○	○			精神保健・福祉領域における法律・施策を説明できる。		
	○	○			精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を説明できる。		
	○	○			精神科作業療法の実践課程と、精神障害特性・回復過程を説明できる。		
○	○	○	○	インテーク面接を実践でき、評価結果をまとめることができる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書:①香山 明美 他編:精神障害作業療法-生活を支援する- 医歯薬出版 ②オリジナル資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 精神障害者処遇の歴史及び精神医学の発展			見学実習での精神科での疑問などをまとめる。		
	2	日本の精神医学の歴史 精神障害者支援に関わる法・制度			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	3	精神障害における生活障害と障害特性			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	4	精神疾患の成り立ちと機能障害			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	5	作業療法の構造と実践形態			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	6	精神障害作業療法の実践(作業療法の導入)			面接演習のための準備を行う。		
	7	精神障害作業療法の実践(作業療法の導入・インテーク面接演習)			面接演習の結果をまとめ、レポートを作成する。		
	8	精神障害作業療法の実践(作業療法の評価)			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	9	精神障害作業療法の実践(作業療法の評価) 精神障害作業療法の実践(目標の設定と作業療法計画)			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	10	回復過程における作業療法の実践(急性期の作業療法)			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	11	回復過程における作業療法の実践(回復期の作業療法)			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	12	精神障害作業療法に関連する理論・モデル・技法			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	13	事例検討(グループワーク)			事例検討のまとめ作業を行う。		
	14	事例検討(グループワーク)			事例検討のまとめ作業を行う。		
15	事例検討(グループワーク) まとめ			事例検討の結果をまとめ提出する。			
評価方法	(1)授業の中で小テスト・演習とレポート課題を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	演習・レポート	◎	◎		◎		20%
履修上の注意							

科目名	装具学									
科目名(英)	Orthotics									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	野村 和代					
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務					
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年									
授業概要	1・装具の目的と給付体系、装具療法における作業療法士の役割を理解する。 2・各種装具の装着目的及び目的達成のために配慮された形態的特徴を知る。 3・疾患に対する装具の役割および装具のチェックアウトの要点を学ぶ。 4・装具製作実習を通し、基本技術を習得し、装具の構造に対する理解を深める。									
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	○	実技:	○	※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				装具療法における作業療法士の役割とを理解し説明できる				
	○	○				装具の給付体系を説明できる				
	○	○				各種装具の部品、形態的特徴、目的を理解し説明できる				
	○	○				疾患に対しての装具の適応を理解し説明できる				
○	○		○		装具のチェックアウトと基本的な上肢装具の製作ができる					
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)高田 治実 監修:OT・PTビジュアルテキスト義肢・装具学 羊土社 参考文献:1)古川 宏 編:作業療法学全書第9巻 義肢装具学第3版 協同医学出版社 2)日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会監修:義肢装具のチェックポイント第7版 医学書院 3)加倉井 周一 編:装具学第4版 医歯薬出版社 4)坪田 貞子 編:動画でわかる熱可塑性スプリント作成マニュアル 三輪書店 5)細田 多穂 監修:義肢装具学テキスト 南江堂									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	装具総論 / 体幹装具				装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	2	下肢装具				装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	3	下肢装具				装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	4	上肢装具総論				装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	5	肩装具・肘装具				装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	6	手・指装具				装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	7	対立装具・把持装具				装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	8	疾患別適応(CVA/SCI/RA)				装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。				
	9	疾患別適応(熱傷/末梢神経損傷/その他)				疾患別装具理解に必要な身体障害に関する内容を確認。講義資料の復習。				
	10	小テスト/装具製作実習説明				国家試験問題の振り返りと装具製作に必要な物品の準備。				
	11	装具製作実習(指装具と短対立装具)				製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。				
	12	装具製作実習(指装具と短対立装具)				製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。				
	13	装具製作実習(掌側カックアップ装具)				製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。				
	14	装具製作実習(掌側カックアップ装具)				製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。				
15	装具製作実習(掌側カックアップ装具)				製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。					
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)製作実習を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	◎				70%			
	小テスト	◎	◎				20%			
製作課題	◎	◎		◎		10%				
履修上の注意										

科目名	日常生活活動 I								
科目名(英)	Activities of Daily Living I								
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	原田芳美				
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務				
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年								
授業概要	人の生活におけるADLの位置づけを知り、特に身体障害領域で用いる ADL評価について教授する。 また、ADLにおける具体的支援の基本知識と技能について実技も交えて学習する。 併せて、ADLを支援するうえで必要な移動補助具(車椅子)について理解を深め、適切に使用することができるようになることも目的とする。								
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	△	実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				ADLの定義と分類を整理し説明することができる			
	○	○				ADLおよびIADLの問題点と援助の視点を説明することができる			
	○	○				ADL評価で用いるFIMとBIIについて理解し、評価することができる			
	○	○	○			OSCEを用いてADLの技能を修得することができる			
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)藤井浩美:日常生活活動の作業療法. 中央法規 2)才藤栄一:臨床技能とOSCE(機能障害・能力低下への介入編). 金原出版株式会社								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	コースガイダンス ADL(日常生活活動)とIADL(手段的日常生活活動)の概念				配布プリントの復習			
	2	身体障害分野における日常生活活動の評価(総論)				配布プリントの復習			
	3	身体障害分野における日常生活活動の評価(各論)				配布プリントの復習			
	4	FIM演習				配布プリントの復習			
	5	セルフケア動作介入への思考過程				配布プリントの復習 宿題:レポートの提出			
	6	食事動作に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習 宿題:レポートの提出			
	7	更衣動作(上衣)に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習 宿題:レポートの提出			
	8	更衣動作(上衣・下衣)に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習 宿題:レポートの提出			
	9	更衣動作(下衣)に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習 宿題:レポートの提出			
	10	車椅子の基礎				配布プリントの予習と復習 宿題:レポートの提出			
	11	車椅子シーティング(基礎)				配布プリントの復習 宿題:レポートの提出			
	12	車椅子シーティング(実践)				配布プリントの復習 宿題:レポートの提出			
	13	車椅子の駆動介助技術				配布プリントの復習 宿題:レポートの提出			
	14	車椅子駆動に対する介入技術				配布プリントの復習			
	15	まとめ				配布プリントの復習			
評価方法	成績処理方法:(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	◎				80%		
	小テスト								
	宿題・レポート	◎	◎	○			20%		
発表・作品									
履修上の注意									

科目名	地域作業療法学 I						
科目名(英)	Community Based Occupational Therapy I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	野村 和代		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療学科 昼間部 2年生						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域リハビリテーションについて学ぶ。</li> <li>・人口減少と生産年齢人口減少、高齢化率の上昇といった日本社会の課題を知る。</li> <li>・地域包括ケアシステムと作業療法士の役割を知る。</li> <li>・地域リハビリテーションに関わる様々な職種の話を知る。</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習: ○	実技: △	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		・地域リハビリテーションと作業療法士の役割を理解する。	
	○	○		○		・生産年齢人口減少、高齢化率上昇等の日本社会における課題を理解する。	
	○	○		○		・日本社会の課題に基づき、地域包括ケアシステム構築の必要性を理解する。	
	○	○		○		・地域包括ケアシステムと作業療法士の役割を理解する。	
○	○		○		・地域リハビリテーションにおいて作業療法士と協業する職種の仕事内容を理解する。		
テキスト・教材 参考図書	作業療法学全書 改訂第3版 第13巻 地域作業療法学 日本作業療法士協会 監修 太田睦美 編集 協同医書出版 2009						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	地域で生活すること			講義内容を復習しノートを整理する。		
	2	地域で生活すること			講義内容を復習しノートを整理する。		
	3	地域リハビリテーションと作業療法			レポート①提出。(15%)		
	4	地域リハビリテーションと作業療法			講義内容を復習しノートを整理する。グループディスカッションの準備しておく。		
	5	地域リハビリテーションに関わる職種-介護支援専門員			講義内容を復習しノートを整理する。		
	6	地域リハビリテーションに関わる職種-認知症介護指導者			講義内容を復習しノートを整理する。		
	7	地域リハビリテーションに関わる職種-社会福祉士			講義内容を復習しノートを整理する。		
	8	地域リハビリテーションに関わる職種-社会福祉士			講義内容を復習しノートを整理する。		
	9	地域リハビリテーションに関わる職種-作業療法士			講義内容を復習しノートを整理する。		
	10	地域リハビリテーションに関わる職種-作業療法士			レポート②提出。(45%)		
	11	通所サービス施設についてとその実際～高齢者デイサービスと訪問看護			通所サービス施設について基本的なことを調べておく。		
	12	通所サービス施設についてとその実際～高齢者デイサービスと訪問看護			通所サービス施設について基本的なことを調べておく。		
	13	通所サービス施設についてとその実際～児童デイサービス			通所サービス施設のレポートを報告資料にまとめる。		
	14	通所サービス施設についてとその実際～児童デイサービス			通所サービス施設のレポートを報告資料にまとめる。		
15	通所サービス施設についてとその実際～通所リハビリテーション			通所サービス施設のレポートを報告資料にまとめる。レポート③提出。(30%)			
評価方法	成績処理方法: (1)レポートを3回実施する。(2)グループディスカッションと発表を行う。以上を次の観点・割合で評価する。A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	◎	◎		◎		90%
発表・作品	○	○		◎		10%	
履修上の注意							